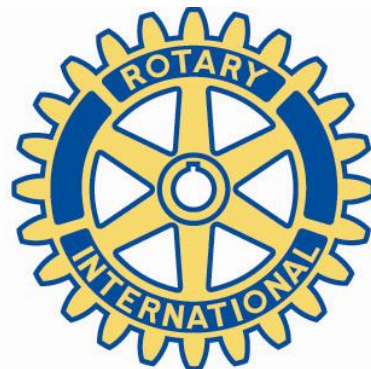


「国際ロータリー 意義ある業績賞」

奉仕プロジェクト

「タイ王国学生の短期招聘を通して
地域社会・国際社会への貢献」



SERVICE Above Self

国際ロータリー第 2550 地区 宇都宮北ロータリー・クラブ
会長 鈴木 宏
幹事 二十二修

「国際ロータリー 意義ある業績賞」

国際ロータリー第 2550 地区 宇都宮北ロータリー・クラブ

会長 鈴木 宏

幹事 二十二修

1.プロジェクト名：「タイ王国学生の短期招聘を通して地域社会・国際社会への貢献」

2.実施期間：2005 年 11 月 18 日から 11 月 26 日

3.本社会貢献活動の主旨について：

現在、私たちロータリアンにとって馴染みのある奨学制度は、「米山奨学事業」ロータリー財団の「国際親善奨学金」と財団の年次寄付による「地区の交換学生事業」です。まずは留学制度について考察していきたいと思います。

現在世界の留学生の数は 190 万人といわれています。平成 25 年には、世界の留学生は 700 万人以上になると予測されています。

- ①世界では急速な経済発展を背景にしたアジアの高等人材の争奪戦が行われています。
- ②欧州統合を底辺から支えるための人材交流計画－エラスムス・ソクラテス計画が実施されています。

しかし、「責任」「貢献」のための受け入れと考えているのは日本だけです。大切なのは、何故受け入れをしているのかを世界の潮流を熟知し、新たなビジョンの一步を踏み出すことにあると思います。

では、具体的に日本はどう舵を取るべきか考えてみます。

- ①高度人材として捉えるスタンスを：

卒業後の社会的活躍をバロメーターとして、母国での活躍の把握－援助型が必要です。また、少子化による労働不足・知的集約的産業に対応する高度人材の必要性・グローバル経済に必要な多様性とダイナミズムの導入－日本での活躍の場も考える必要があります。

- ②アジアとの持続的平和・共存のため留学交流による貢献：

此处で考えなくてはならないのは、「普通の成績、金持ちでない」学生こそが、今後の日本とアジアの関係を底辺で支え、個人間の付き合いやパイプを無数に広げていくのではないかと思います。

- ⑦「普通の成績、金持ちでない」留学生であつても、卒業後、日本で働き行き来するようになれば、将来の貴重な留学生を導く「呼び水」となると思います。

- ⑧アジアの日本語学部を短期間でも招待することは、「親日家」「知日家」を増やすことに繋がると思います。

現行の経済審査重視型ではなく、成績重視型に改めることが「優秀な留学生」確保に繋がるのではないのでしょうか。統一試験で一定の点数が取れていれば、経済審査基準をある程度下げること必要かもしれません。

留学交流に関しまして、以上の考えのもと、私たち宇都宮北ロータリー・クラブでは、クラブ創立 20 周年の事業として、アジアの学生を短期間招聘して、「親日家・知日家」を育て、そして地域社会とアジアの学生との交流が地域社会に対する奉仕活動の一つになると考え事業を計画しました。

4.本社会貢献活動の計画について：

- ①短期間でも良いから、お互いに面識を深め心の交流が出来るようにするために、今回は親日家の多いタイ王国の学生を対象とする。
- ②選考に関しては、宇都宮北ロータリー・クラブの会員が現地にて募集・選考しクラブで招聘する。これは、会員宅に無償でホームステイし、クラブの事業の一環として地域の企業・大学を訪問したりする上で、「信」「義」「礼」を兼ね備えた若人を招聘したいという願いがあるからです。そして、地域社会から忘れられている昔の日本人の心を垣間見ることにより、地域社会へのロータリーらしい奉仕が可能かと考えました。
- ③対象の学生は、一度も日本に来たことはなく、近い将来も日本に個人的に来る費用負担が出来ないが、日本に興味のある大学生で、選考後 2 ヶ月で日本語を話せるようになりかつ日本の文化を勉強する意欲ある若人としました。
- ④「普通の成績、金持ちでない」学生であっても、短期間でも招待することは、「親日家」「知日家」を増やすことに繋がり、将来貴重な留学生を導く「呼び水」となることと思います。今後の日本とアジアの関係を底辺で支え、個人間の付き合いやパイプを無数に広げていくという期待もあります。
- ⑤このようなプロジェクトはクラブでは十分な情報を得ることも出来ないもので、地区青少年交換委員の栃木ロータリー・クラブの佐山 知也君に協力していただき、タイ王国 RID3550 シャロンコーン ロータリー・クラブの協力を得ることとしました。
- ⑥言葉・文化の違いを理解し合い、面識を深め、心の交流が目的の一つではありますが、地域社会にとっては、心豊かなタイ王国の学生が醸し出す昔の日本人の香りがロータリー的な奉仕活動でもある「一隅に照る」働きがあると思います。「一隅を照らす」というように気張らなくとも、小さく自然に照っていれば、自ずと周囲は明るくなってきます。「サーヴィスの理念の実践」とは「一隅に照る」ことと考えております。

今後、このような交流形態が継続し、親日家・知日家がアジアの街々に広がっていき、アジアの心豊かな若人の織りなす地域社会との交流は、地域社会に「伝統と文化」・「心の絆」を呼び起こしてくれるのではないかと期待しています。

4.本社会貢献活動のクラブ委員会の立案・計画について：

決議 23-34 の『団体として奉仕するよりも、ロータリアン個々の力を動員する方がロータリーの精神に適っている。ロータリー・クラブでの社会貢献活動は会員にサービスの訓練を施すために考えられた研究室の実験としてのみこれを見るべきである。』と記載されています。（実は、定款第 4 条第 3 項の解説に過ぎません。）

このサービスの方針に沿って、クラブ委員会にて立案・計画をして、本プロジェクトを実施しました。

今年度より、宇都宮北ロータリー・クラブは CLP 導入によりクラブ運営の組織が変まりました。大きな目的は、やはりクラブの活性化です。そして、社会貢献活動プロジェクト委員会が目玉になるのですが、「**Enter to learn, Go forth to serve**」1947-48 年度 RI 会長 S. ケンドリック・ガーンジー（ジャクソンビル RC）の提唱した言葉ですが、この「出でて奉仕せよ」を学ぶ場としての委員会と考えています。社会奉仕・新世代奉仕・国際奉仕の委員会が小委員会となり、一つのプロジェクトを社会貢献活動プロジェクト委員会という一つの枠組みの中で立案・実践していく訳です。そして、クラブ運営委員会が例会を担当し、この「入りて学び」に当たるわけです。

1927 年からロータリー運動に導入された四大奉仕は「技術的概念」です。形から入ってその心を知る - 茶道の世界と同じ考えと思います。しかし、この四分類法には、「入りて学ぶ」場の特定がはっきりしない欠点があります。

そこで、今回の CLP 導入を機に、例会内・例会外に分けて考えていく二分類法を明確に組織編成に取り入れてみました。たかがロータリーと思われる方は 70%、されどロータリーと考える方は 30%と言われております。確かに今回の CLP 導入に関しまして、定足を満たす例会にて採択されたものですが、会員間には十分に理解されていない方も多々みられます。当然のことと思われます。しかし、クラブ管理組織を二分類法にしてロータリー運動をしていくことにより、形から入ってその心を知るようになっていくのではないかと願っています。

本題に戻り、まず今回のプロジェクトは「20 周年記念実行委員会」が主体となり、立案・計画をして、クラブ・フォーラムにて説明をしました。

そして、「社会貢献活動プロジェクト委員会」がタイ王国の学生の受け入れ先の検討・企業訪問先の検討・大学訪問の検討・「寺子屋」を通して日本の伝統文化を学ぶ地域の小学生との交流の検討等を行いました。「広報・雑誌委員会」は、本プロジェクトのメディアを通した広報に関して検討し、「ロータリー・ファミリー委員会」は、会員家族参加のウェルカム・パーティーから始まり、20 周年記念式典後の祝賀会・さよならパーティーを企画いたしました。そして、今回のプロジェクトの資金集めのために、「ニコニコ・ボックス委員会」が例会にて協力を呼びかけました。「会報委員会」は、クラブ内広報を検討しました。

このように一つのプロジェクトに対しまして、各委員会の検討のもと、クラブ理事会に諮り、承認を受けました。

5.本社会貢献活動の報告について：

①タイ国学生招聘プロジェクトの経過

平成 17 年 1 月

20 周年記念実行委員会にて、記念事業計画の 1 つとして、「日本に来たくても経済的に恵まれてなくて日本に来られない大学生で成績優秀で日本の文化、芸術等に関心があり、日本のことを勉強している東南アジアの大学生を招聘しかつ地域社会に対する奉仕活動も兼ねる件について研究しよう」という考えが提示され委員会にて吟味されました。

平成 17 年 3 月

20 周年記念実行委員会・奉仕活動プロジェクト委員会にて、招聘学生の国の検討をしました。諸条件を検討、比較し今回の招聘はタイ王国の学生とすることと決定されました。

平成 17 年 6 月

地区青少年交換委員の栃木ロータリー・クラブの佐山 知也君に協力していただき、タイ王国 国際ロータリー第 3350 地区 Charoen Nakorn Rotary Club の Poolsook Laotrakul 会長と直前会長の Pornphatu Rupjumlong 氏に協力を依頼しました。喜んで協力する旨の返事が 6 月 6 日に届き、7 月 31 日までに数 10 回の E メールのやり取りで学生招聘の内容について打ち合わせを行いました。

[打ち合わせ内容]

1.招聘学生の人数・期間

人数

予算等を検討した結果招聘学生は 10 名

期間

平成 17 年 11 月 18 日（金）から 11 月 26 日（土）の 8 泊 9 日

2.費用負担

日本ータイ王国の往復航空運賃

到着以降帰国までの費用

学生選抜に係る費用

エアータックス

3.選抜基準

シャロー・ナコーン ロータリー・クラブ推薦の大学の中からその学長が推薦する成績優秀であるが経済的に恵まれていない家庭の子女で日本の文化・芸術・技術等に関心がある学生。

平成 17 年 8 月 1 日

タイ国の各大学へ宇都宮北ロータリー・クラブの趣旨と会長の方針にそった学生を推薦いただくよう依頼文を送る。（シャロー・ナコーン ロータリー・クラブ宛）

学生募集をしたところ 200 名近くの応募があり其の中から 20 名を書類選考しました。

平成 17 年 9 月 17 日

20 周年記念実行委員会委員長 齋藤隆君と地区青少年交換委員の栃木ロータリー・クラブの佐山 知也君が、タイ王国に行って、現地にて招聘学生の選考に当たり

ました。バンコク市内のロータリー・クラブ会館で選抜されました 20 名の学生と面接をして、11 名の学生を招聘学生として決定しました。

平成 17 年 9 月 18 日

選考されました招聘学生 11 名を対象として、第 1 回オリエンテーションを実施、日本・栃木県および宇都宮の現状を齋藤隆委員長が説明。
日本の生活習慣を齋藤隆委員長・佐山知也君が説明。

平成 17 年 11 月 18 日の来日までに数回のオリエンテーションがシャロー・ナコーンロータリー・クラブ主催にて実施されました。

②タイ国学生招聘プロジェクト実施（平成 17 年 11 月 18 日－26 日）

招聘学生(氏名・ニックネーム・ホストファミリー先)

1 Ms.Sasinee Thongperm	ルックグワン	橋本昭二会員宅
2 Ms.Supharat Kaewluk	エン	二十二修会員宅
3 Ms.Suntharee Matta	ユイミー	荻原葉子宅
4 Ms.Benjamat Chairungmaneedamrong	ティン・ティン	亀和田信明会員宅
5 Ms.Chuthamas Thipraksa	シヨンプー	杉本伸子宅
6 Ms.Suchada Kanthawang	イン	村上明子宅
7 Ms.Pavinee Buaman	ヌーン	小倉和己会員宅
8 Ms.Duangluthai Chaipayuan	ウアン	齋藤隆会員宅
9 Mr.Pavinee Buaman	ノーム	岩原臣男会員宅
10Mr.Kittinun Nuankam	ボーイ	新妻健一会員宅
11Mr.Natthphol aaathungkaew	クワン	上野一典会員宅

リーダーとして、RID2550 の 2001-02 年度の一年交換学生の Ms.Phutapin Rujumlong メイさんも参加しました。

平成 17 年 11 月 18 日

招聘学生が TG-676 便にて 16 : 00 成田着。メイを除く全員が海外旅行が初めてのため、見るもの、聞くものが驚きと感激であったことはその言動で読み取れました。

曰く：成田空港のきれいで明るいこと（バンコク空港と比較して）、そして、一番驚いたことは、どこに行ってもトイレが綺麗なこと。

また、新幹線に乗ったときの喜び方は言葉で表現できないほどでした。

当日は、疲れもあるだろうということで、宇都宮グランドホテルに宿泊。

平成 17 年 11 月 19 日

期待に胸膨らませてホスト・ファミリーと対面後、ホスト・ファミリー宅へ行き、会員の事業所見学。宇都宮の街を散策しました。夕方、加藤茂樹会員の経営する焼肉「友雅亭」にて歓迎パーティー開催。



平成 17 年 11 月 20 日

当初の予定では、社会奉仕活動の「寺子屋―連凧作り at 姿川」の予定でありましたが、凧作りの講師の方がご病気になられ、急きょ中止になりました。タイ王国には林檎がないという話を聞き、林檎狩りをしました。初めての経験でした。

昼食は、回転寿司にいきました。初めは驚いていましたが、あまり口に合わないようでした。大谷を見学後、宇都宮市立美術館へ行き、解散。



平成 17 年 11 月 21 日

宇都宮大学国際学部との交流は、大学祭の最中、大学キャンパスにて行われました。積極的に日本の学生の中に溶け込んで入ったようです。宇大の学生も日ごろタイ語の勉強をしているので会話がある程度進み楽しそうであり、名刺の交換をする光景も見られました。このような交流が、地域社会を活性化していくと考えられます。



平成 17 年 11 月 22 日

下野新聞社・栃木テレビ局・栃木放送局の見学は、招聘学生から質問が多く出ていました。栃木放送局では、ラジオ放送番組の「言いたい放題」に出演する機会がありました。ロータリーの活動を広く地域に広報できたことと思います。（資料として提出いたします）市役所の表敬訪問では、さすがに緊張したようでしたが、佐藤栄一市長より、招聘学生に名誉市民賞の贈呈があり大変感激しているようでした。

その後、ホスト・ファミリー先の荻原葉子さん宅にて、着物を全員が試着させていただき、お茶の席を設け日本の文化を楽しみました。そこでは、ロータリー関係者以外のお手伝いもあり地域との交流も十分に楽しめました。



平成 17 年 11 月 23 日

宇都宮北ロータリー・クラブ創立 20 周年記念式典の日です。タイ王国 RID3350 の Charoen Nakorn Rotary Club の直前会長の Pornphatu Rupjumlong 氏に出席頂き、招聘学生による日本語のスピーチが行われました。招聘学生の心を揺さぶる話に涙する来賓の方がおられましたことを報告いたします。その方の感性の豊かさに再度

感激をいたしました。今回、栃木テレビ局の協力により、当日夕方と翌日のニュース番組で招聘学生のスピーチが放映されました。地域の人たちにロータリー活動を広く広めることが出来ました。（資料としてビデオを提出いたします）その後の祝賀会では、和気藹々と招聘学生との交流が各テーブルで見られました。招聘学生によるタイの舞踊を見せていただき、最後は、タイの舞踊の簡単なものを参加者全員で輪になって踊りました。大成功でした！





平成 17 年 11 月 24 日

文星芸術大学を訪問して、彫刻・絵画の制作中の授業を見学させていただき、文星芸術大学の学生さんと話し合い交流を深めました。その後、佐野正行パストガバナーにお願いして、英語でガイドされる方に日光東照宮を案内していただきました。タイの仏教文化における寺院の美しさと趣が異なるのに最初戸惑った様子でしたが、東照宮の美しさに感激しておりました。

平成 17 年 11 月 25 日

日本の最新テクノロジーを見たいという要望があり、富士通小山工場を小宅工場長（1998 年から 2002 年の 4 年間富士通バンコク工場勤務）のタイ語での説明で案内していただきました。夕方、宇都宮グランドホテルにてさよならパーティーが開催されました。名残惜しい別れでした。



平成 17 年 11 月 26 日

いよいよ涙の別れ、帰りは東京を案内して成田に向かいました。成田発 TG-677 便 16:50 発の機中の人となりました。



③タイ国学生招聘プロジェクトの地域社会への影響

今回のプロジェクトでは、多くの地域社会の方々にお会いする機会が多々ありました。皆さん口をそろえて出る言葉は「昔の日本人を見ているようだ」という言葉でした。礼を尽くし、信義に厚い人と感じたのではないかと思います。今の地域に必要なものは何であるかを考えさせられたのではないかと思います。それでこそ「一隅を照らす」奉仕活動ではなく、ロータリー本来の「一隅に照る」社会貢献活動が出来たと自負しております。

④本プロジェクトの決算

選考のためタイ王国への航空運賃および宿泊代	280,880 円
Charoen Nakorn Rotary Club へのお土産代	61,828 円
ビザ所得費用	400 円
成田駐車場代	2,625 円
選考会場使用代	150,000 円
郵送費	1,715 円
招聘学生の成田ーバンコク間の往復運賃	720,000 円
招待学生の成田ー宇都宮間の新幹線運賃	109,800 円
JR 宇都宮ー宇都宮グランドホテルまでのタクシー代	4,000 円
会員外ホスト・ファミリーへの謝礼	40,000 円
11 月 18 日の夕食代	15,380 円
11 月 19 日の歓迎パーティー代	120,000 円
11 月 20 日の昼食代・林檎狩り代	56,001 円
11 月 21 日の宇都宮大学訪問に際し作成資料代・昼食代	40,000 円
11 月 22 日のお茶代・昼食代	11,389 円
11 月 24 日の東照宮拝観玉串代	10,000 円
11 月 24 日の東照宮参拝記念お守り代	5,040 円
11 月 24 日の昼食代	10,700 円
11 月 24 日の日光道高速道路利用代	1,000 円
11 月 25 日の昼食代	12,018 円
11 月 25 日の記念品代	7,350 円

11 月 25 日の富士通へのお土産代	9,795 円
11 月 25 日のさよならパーティー代	164,500 円
11 月 26 日の高速道路利用代	5,350 円
11 月 26 日の昼食代	11,250 円
会議費	32,167 円

合計 1,883,188 円

⑤本プロジェクトの今後

全般的に大人しい学生達でした。日本とタイの文化の違いに最初は戸惑っていたようでしたが、慣れるにしたがって一人で散歩に行ったり迷子になったりする学生がいました。

今回、東南アジアの若者に日本の現状を見聞してもらい、日本が近隣諸国と仲良く平和に暮らすことに対して、いかに真剣に取り組んでいるかを膚で感じ取ってもらえたのではないかと思います。

皆、日本が好きで、また来たいと言っておりました。

彼女達を招聘したことは、最初の一步としては大成功と感じています。今後このプロジェクトの継続を考えていく際、1 クラブでは難しいので複数クラブで実施できればと考えております。

本社会貢献プロジェクトは、あくまで会員が「サービスの理念」を学ぶ場としてのプロジェクトです。

提出します資料：招聘学生書類選考時の応募作文・招聘学生が帰国後の礼状・今回作成しましたパンフレット・平成 17 年 11 月 23 日栃木テレビで放映された映像ビデオ・平成 17 年 11 月 22 日栃木放送にて放送された「言い放題」での録音テープ以上。

文責：鈴木 宏